

より良い社会であるために

静岡市立清水第七中学校 1年 菅原 佳奈

私は、これまで税金のおかげで色々なサービスを受けてきた。中学生の私が国に納めてきた消費税の金額では、到底このサービスを受けることはできない。しかし、私が知らないたくさんの大人により、困っている人がサービスを受けることができるように負担をしてくださっている。国の収入の中で、税金は六割を占める。毎日たくさんの大人が様々な種類の税金を納め、高額な税金が国に入る。そして、私たちのために大半が使用され、毎日の安心安全な暮らしがあることに、感謝の気持ちでいっぱいになった。

国の支出金額の中で、健康や生活を守るために使用される割合が三三.七%あることがわかった。私はこのサービスを今までたくさん受け、制度のありがたさを実感してきた。生まれつき首から指先までアザがある私は、生後三か月から東京で治療をしている。生まれたときに病気がわかった両親は、精神的にとっても不安だったと思う。しかし、日本では治療後に区役所に申請するとわずかな自己負担金で治療を受けることができる。この制度のおかげで納得いくまで治療ができ、子供を助けた親にとっては、とても嬉しいことだ。両親は税金にとっても感謝をしている。

そして、この夏休みに驚いたことがあった。私は学校の健康診断で指摘を受け、夏休みに病院での再検査を受けることになった。幸い結果は安心できるものだったが、会計で検査費用をお支払いする母に病院側がこのように言った。

「自己負担金はありません。」

私も母も驚いた。精密な検査をしたのに、無料なのだ。これも税金で負担されている。私たち中学生の未来の健康もたくさんの大人が守ってくれている。税金は未来への希望でもあることがわかった。

また、道路の整備などにも税金が使用されている。私が通っていた小学校の正門前は、交通量が多く、朝の通勤時の大人と、通学する小学生がたくさんすれ違う。その中には、自転車を使用する人もいて、歩道の中で危ないと感じていた。ある日、歩道に歩行者と自転車が区別されるラインがひかれた。毎朝、学校の先生、交通指導員の方、旗振りの保護者が、交通事故がおきないように見守ってくださるが限界がある。それが、税金で歩道が区別されることにより、小学生が事故に巻き込まれる機会を未然に防ぐことができたのだ。とてもよい税金の使い道だと感じた。

これから訪れる高齢化社会により、若い納税者が減っていき、国の税金収入が減ると予測される。その時に、困った人にも今と同じく手を差し伸べる社会でありたい。だから私は、今から税金の知識を深め、仕組みや使い道について、もっと学習をしていく。将来、しっかりと納税できる大人になるために。